

大学教育再生加速プログラム(AP) 中間評価結果

整理番号	57	大学等名	長崎短期大学
テーマ	テーマⅣ 長期学外学修プログラム（ギャップイヤー）		

【総括評価】

A：計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

【コメント】

<優れている点>

- ・当初計画にはなかった全学の教育改革を目的とした「大学改革委員会」を設置するなど、改革を加速する仕組みを整備してきていることは評価できる。また、思想的に一貫した入口から出口までの質保証を担保するシステムの構築を目指していることは評価できる。
- ・教育成果について、語学力の伸長、学生の自己評価基準の明確化など具体的な成果をあげていることは評価できる。
- ・事業の実施体制、評価体制は、計画通り順調に整備が進んでおり、PDCAサイクルについても、学生によるアンケート等の客観的なエビデンスに基づいた取組となっていることは評価できる。
- ・事業全般の進捗状況からは、事業は今後も順調に進捗するものと見込まれ、また、資金面においても、学外機関からの資金獲得や寄付を得るためのプロジェクトを開発することを想定するなど、考え方としては非常にユニークな仕組みになる可能性があり、評価できる。
- ・取組結果を分析し、その成果を積極的に学外学修関連学会で発表するなどの姿勢は評価できる。

<改善を要する点>

- ・補助期間終了後の体制継続の面においては、特に人員面では補助期間終了後も必要人員を継続雇用すると中間評価調書に記述されているが、それが確実に実行される確証の記述がない。また、成果測定に関する外部委託費も高額である。そのため、費用対効果や補助期間終了後の評価に関する指標の開発等も検討する必要がある。
- ・長期学外学修プログラムへの参加割合について、国際コミュニケーション学科での成果は評価できるが、全学の目標達成に向けた他2学科における具体的な検討・計画を行う必要がある。授業外学修時間も目標値と大きな開きがあるため、周知のみならず、カリキュラムや授業の内容・方法を含めた検討が必要である。また、PROG（委託）以外に、ルーブリックをはじめ多面的な評価方法についても検討する必要がある。